PART3 近代思想の確立

Chapter1　ルネサンスと宗教改革

目標
ルネサンスが何を目指したものだったかを考えよう。
宗教改革により，キリスト教世界がとった動きを学ぼう。

1　ルネサンス

①〔　　　　　　　　　　〕**〔文芸復興〕**とは

A　中世末期～近世初期の 14 ～ 16 世紀にヨーロッパ各地で展開された文化運動

B　〔人文〕**主義〔人間中心主義・ヒューマニズム〕**

古代〔　　　　　　　　〕・〔　　　　　　〕**文化**を模範に**人間性の回復**を目指す

※中世カトリック教会の「神」中心の秩序に代わる，新たな「人間」中心の秩序を求めた。

②ルネサンス期の文芸・思想

A　**イタリア**

ダンテ『〔　　　　〕』，ペトラルカ『叙情詩集〔カンツォニエーレ〕』，ボッカチオ『デカメロン』，〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕『人間の尊厳について』，〔　　　　　　　　　　　　〕『君主論』など。

B　イギリス

トマス＝モア『〔　　　　　　　　　　〕』，シェークスピア『ヴェニスの商人』『ハムレット』など

C　ネーデルラント〔オランダ〕

〔　　　　　　　　　　〕**『愚神礼賛』**など

D　スペイン

セルバンテス『ドン＝キホーテ』など

春〔プリマヴェーラ〕

③ルネサンス期のイタリア美術→遠近法の確立

(写実主義へ)

ボッティチェリ『〔　　〕』『ヴィーナスの誕生』，レオナルド＝ダ＝ヴィンチ『最後の〔　　　　〕』『モナ＝リザ』（さまざまな分野で活躍した「**万能人〔普遍人〕**」の典型），〔　　　　　　　　　　　　　　〕**『最後の〔　　　　〕』**彫刻**『ダヴィデ像』**，〔　　　　　　　　　　〕**『アテネの学堂』**や多数の聖母子像

2 宗教改革

①〔　　　　　　〕による〔　　　　　　　　〕の開始（**1517 年**）

A **贖宥状〔免罪符〕**を売り出すカトリック教会の腐敗への批判

B〔　　　　　　〕のヴィッテンベルクで**『九十五カ条の論題〔意見書〕』**を発表

C 信仰義認説・福音主義→パウロの教えへの回帰

D 聖書中心主義→ラテン語からドイツ語へ翻訳

E 万人司祭主義→特権的身分の聖職者は不要であるとした

F 職業召命観→職業に貴賤などないとした

②**フランス**の〔　　　　　　　　　〕によるジュネーヴでの宗教改革

A **予定説**

B 職業召命観の継承・発展→「**職業人〔専門人〕**」という新たな人間像を生む

C 天職

3 カトリック教会による対抗宗教改革

①〔　　　　〕**宗教改革〔反宗教改革〕**

カトリック教会による教義の明確化と内部革新による勢力の立て直し

※ルター派・カルヴァン派・イギリス国教会ら**プロテスタント〔新教〕**への対抗。

②トリエント公会議（1545 ~ 63 年）→イタリアで 3 会期に分け開かれる

教皇の至上権再確認とカトリック教会腐敗の防止

※禁書目録を作り宗教裁判所を強化して思想統制も行う。

③〔　　　　　　　　　〕の結成（1534 年）

イグナティウス = デ =〔　　　　　　〕が**フランシスコ =**〔　　　　　　　　〕らとパリで結成

※教皇の許可を受けて布教と教育に力を入れ，南ヨーロッパの他に新大陸やアジアなど〔　　　　　　　　〕も進める。

まとめ

ルネサンスは，古代ギリシア・ローマの文化を模範に，中世の「神」を重視する価値観からの，人間性の回復を目指した。

宗教改革でプロテスタントが登場すると，カトリックはそれに対抗した。

Chapter2　西洋の近代哲学

目標　近代自然科学の合理主義を基に出現した学問・思想とは何かを知ろう。
経験論と合理論の真理探究方法の違いについて学ぼう。

1　モラリスト

16 ～ 17 世紀，**フランス**に〔　　　　　　　　　　〕と呼ばれる思想家が現れた。

※**宗教戦争**など新旧価値観の対立により混乱するヨーロッパにあって，人間を深く観察し，その能力や人間性を（ルネサンス期に比べ）謙虚に捉えて生き方を探究した。

①〔　　　　　　　　　　〕→主著『**随想録〔エセー〕**』

A「**ク＝セ＝ジュ〔私は何を知るか〕**」→懐疑の精神を持ち自己を見つめる

B　寛容の精神→カトリックの立場から他者に対する寛容さを重視

②〔　　　　　　　　〕→主著『**瞑想録〔パンセ〕**』

A「**人間は〔　　　　　　　〕である**」

B　人間は悲惨さと偉大さの間をさまよう「**中間者**」

2　近代科学の誕生

近代（自然）科学の**合理主義**の出発点（キリスト教や神の存在は否定せず）

①ポーランドの〔　　　　　　　　　　〕**→天動説を否定**し〔　　　　　　〕を提唱

②イタリアの〔　　　　　　　　〕→「それでも地球は動く」

③ドイツの**ケプラー**→惑星の運動法則「ケプラーの法則」を発見し地動説を支持

ヨーロッパ

④イギリスの〔　　　　　　　　　　〕→万有引力の法則を発見し近代物理学を完成

3　イギリス経験論

イギリス〔　　　　　　〕→真理は**経験**から得られる（＝実証）

①**フランシス＝ベーコン**→主著『ノヴム＝オルガヌム〔新機関〕』

「**知は力なり**」「自然は服従することによってでなければ征服されない」

A　**４つのイドラ**〔偏見〕（種族・洞窟・市場・劇場）の排除が必要

B　**帰納法**→観察・実験から得られた個別的事実を整理し一般的法則を見出す

②ホッブズ→機械論的唯物論

③〔　　　　　　〕人間の心は「**白紙〔タブラ＝ラサ〕**」→生得観念〔本有観念〕を持たない

④アイルランドのバークリー→唯心論「存在することは知覚されることである」

⑤ヒューム→人間は「知覚の束」であるとし，「因果律」など認めない懐疑論

4　大陸合理論

大陸〔　　　　　　〕→真理は**理性**による推理で到達できる（＝論証）

①フランスの〔　　　　　　　　〕→主著『方法序説』

「**われ思う，ゆえにわれあり〔コギト＝エルゴ＝スム〕**」

A　**方法的懐疑**→デカルトは「近代哲学の父」

B　真理に到達するための４つの規則（明証・分析・総合・枚挙）を指摘

C　**演繹法**→確実な真理から論理的に結論を導く

D　**物心二元論**→人は良識〔ボン＝サンス〕＝**理性**という生得観念〔本有観念〕を持つ

※機械論的自然観の原型。

②オランダのスピノザ→「神即自然」の汎神論（神による一元論）

③ドイツのライプニッツ→「神の意思による予定調和」の単子〔モナド〕論

5　啓蒙思想

啓蒙思想→ 18 世紀は「啓蒙の世紀」

※旧体制〔アンシャン＝レジーム〕の〔　　　　　　　　〕やドイツで，無知蒙昧な人々に**理性**の光を当て近代科学・哲学による自然支配の発想を肯定。

①フランスの〔　　　　　　　　　　　　　〕

『**法の精神**』で立法・行政・司法の**三権分立**を主張

②フランスの〔　　　　　　　　　　　　〕

『**哲学書簡**』で宗教的寛容の精神を説く

③フランスのディドロやダランベール→『百科全書』刊行の中心

まとめ　近代自然科学の合理主義を基に出現したのが近代哲学である。
経験論は経験に基づく実証，合理論は理性に基づく論証を行う。

第２講　PART3　確認問題

1　ルネサンス期に『神曲』を著した人物はだれか。

①　マキァヴェリ　②　ダンテ
③　ボッカチオ　④　ピコ＝デラ＝ミランドラ

2　ルネサンス期にネーデルラント〔オランダ〕のエラスムスが著したのは何か。

①　『愚神礼賛』　②　『ユートピア』
③　『君主論』　④　『ドン＝キホーテ』

3　イタリアのルネサンス期に『モナ＝リザ』を描いた人物はだれか。

①　ラファエロ　②　レオナルド＝ダ＝ヴィンチ
③　ボッティチェリ　④　ミケランジェロ

4　イタリアのルネサンス期のミケランジェロの作品は何か。

①　『最後の晩餐』　②　『アテネの学堂』
③　『最後の審判』　④　『ヴィーナスの誕生』

5　宗教改革を行った，フランスのカルヴァンが唱えた考え方は何か。

①　万人司祭主義　②　信仰義認説
③　聖書中心主義　④　予定説

6 モラリストの 1 人で,「ク = セ = ジュ〔私は何を知るか〕」と述べた人物はだれか。

① パスカル　② フランシス = ベーコン
③ デカルト　④ モンテーニュ

7 天動説を否定し，地動説を提唱した人物はだれか。

① ニュートン　② ケプラー
③ ガリレイ　④ コペルニクス

8 フランシス = ベーコンが主張したのは何か。

① 帰納法　② 演繹法
③ 汎神論　④ 唯心論

9 大陸合理論の祖であるデカルトの言葉は何か。

①「知は力なり」　②「われ思う，ゆえにわれあり」
③「白紙〔タブラ = ラサ〕」　④「人間は考える葦である」

10『哲学書簡』を著した人物はだれか。

① モンテスキュー　② フランシス = ベーコン
③ ヴォルテール　④ モンテーニュ

第2講　PART3　確認問題 解答

1 解答：②

ダンテが魂の遍歴をうたった叙事詩『神曲』は，ルネサンス文学の先駆けとされている。

①：『君主論』の著者。
③：『デカメロン』の作者。
④：『人間の尊厳について』の著者。

2 解答：①

エラスムスは硬直化したカトリック教会を『愚神礼賛』で痛烈に批判し，ルターに影響を与えた。

②：イギリスのトマス＝モアの著作。
③：イタリアのマキァヴェリの著作。
④：スペインのセルバンテスの著作。

3 解答：②

レオナルド＝ダ＝ヴィンチはさまざまな分野で活躍した「万能人〔普遍人〕」の典型とされた。

①：『アテネの学堂』や多数の聖母子像を描いた人物。
③：『春』や『ヴィーナスの誕生』を描いた人物。
④：『最後の審判』を描いた人物。

4 解答：③

ミケランジェロの作品としてはほかに，彫刻の『ダヴィデ像』があげられる。

①：レオナルド＝ダ＝ヴィンチの作品。
②：ラファエロの作品。
④：ボッティチェリの作品。

5 **解答：④**

予定説は，人間の運命や救いは神によってあらかじめ決定されている，という考え方である。

①：ルターの考え方で，信仰において特別な聖職者は不要で，誰もが神に仕えるというもの。
②：ルターの考え方で，福音を信じることによってのみ義とされるというもの。
③：ルターの考え方で，信仰のよりどころを教会ではなく，神の言葉が記されている聖書にのみ求めるというもの。

6 **解答：④**

「ク＝セ＝ジュ〔私は何を知るか〕」は，モンテーニュの主著『随想録〔エセー〕』での言葉で，懐疑の精神をもち自己を反省することを求めるものである。

①：「人間は考える葦である」と述べたモラリスト。
②：「知は力なり」と述べたイギリス経験論者。
③：「われ思う，ゆえにわれあり〔コギト＝エルゴ＝スム〕」と述べた大陸合理論者。

7 **解答：④**

コペルニクスは，中世を支配していたプトレマイオスの天動説を批判した。

①：万有引力の法則を発見し，近代物理学を完成させた人物。
②：惑星の運動法則である「ケプラーの法則」を発見し，地動説を支持した人物。
③：物体の落下の法則などを発見し，物理学の基礎を確立した人物。

8 **解答：①**　帰納法は，観察・実験から得られた個別的事実を整理し，一般的法則を導き出す学問の方法である。

②：デカルトが主張した，確実な真理から論理的に結論を導き出す学問の方法。
③：スピノザが主張した，精神と物体とは２つの実体ではなく，ともに唯一の実体である神の属性にすぎないとする理論。
④：バークリーが主張した，「存在することは知覚されること」だとして，物質の存在を否定する理論。

9 **解答：②**　「われ思う，ゆえにわれあり」はデカルトの哲学における第一原理である。

①：イギリス経験論の祖であるフランシス＝ベーコンの言葉。
③：イギリス経験論者のロックの言葉。
④：モラリストのパスカルの言葉。

10 **解答：③**　『哲学書簡』では，宗教的寛容の精神が説かれている。

①：主著に『法の精神』がある。
②：主著に『ノヴム＝オルガヌム〔新機関〕』がある。
④：主著に『随想録〔エセー〕』がある。